

6月3日(月)

## イエス様に従う

聖書朗読 申命記 6:1~9

そこで、イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。』これがたいせつな第一の戒めです。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』という第二の戒めも、それと同じようにたいせつです。  
マタイ 22:37~39

本日の聖書朗読箇所は、ユダヤ教の信者がとても大切にしている箇所です。彼らはこの箇所を「シェマーの箇所」(ヘブル語で「聴け!」という意味)と名付けて親しんでいます。イエス様もこの箇所を引用なさりながら、律法の核となる教えをお示しになったのです。またイエス様は、「あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ」という教えも併せて大切であると述べておられます。

神様と隣人とを愛すること——これが父なる神の教えの核である、とイエス様はおっしゃっているのです。「神と人とを愛せよ」という教えは、私達が(教会等で)よく耳にする教えですから、当たり前のことのように感じてしまい、その教えの大切さを深く心に留めていないかもしれません。神様と隣人とを愛しなさいという大切な教えに、私達は改めて「シェマー」、つまり「聴く」必要があるのではないのでしょうか。意識的にこの御言葉に聴かなければ、私達の心は、自己中心の思いや恐れや不満などですぐに一杯になってしまいます。

聖書朗読箇所(申命記)は、「神様と隣人とを愛する」という教えを大切に心に刻むためにどうしたらよいかという示唆も与えられています。それは、私達の生活の中でこの教えを意識的に思い出すことです。例えば、誰か会話する時も「神様と隣人とを愛する」ことを意識しながら会話するなら、その会話は愛ある会話になります。或いは、一日一回「神様と隣人とを愛する」と紙に書いてみるのも、この大切な教えを心に刻んでいく良い方法かもしれません。

人生を真に意味のあるものとするためには、自分のためだけに生きるのではなく、誰かのために生きることが大切な要素なのです。意味ある人生を過ごす上で最も素晴らしいお手本となるのは、イエス様の生き方です。イエス様は「わたしに従いなさい」と招いておられます。

讃美歌 391

祈り 天の神様。あなたを心から愛し、あなたと共にほかの人々をも愛することが出来ますよう、私を助け導いて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジェフ・カリー  
テキサス州 ラボック

## 今日のカ

2019年6月3日~6月9日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

6月4日(火)

## 聞いていますか？

聖書朗読 Iサムエル 3：1～10、19

神は、むかし父祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られました。この終わりの時には、御子によって、私達に語られました。神は、御子を万物の相続者とし、また御子によって世界を造られました。

ヘブル 1：1～2

言葉——それは、神様から人が頂いている賜物の中でも特に素晴らしいものの一つです。便利なものですが、時々トラブルの原因になることもあります。私はおしゃべりで、人の話をきちんと聞く前に余計なことを話してしまうことがあります。聞かれてもいないことを答えたり、不適切な応答をしてしまうこともあります。それは、私が相手の話をきちんと聞いておらず、意味を理解しようとしていないからです。

同じようなことがサムエルにもありました。サムエルは、エリが自分を呼んでいるのだと思い、エリの許へ行きましたが、呼んでいたのはエリではありませんでした。同じことが二度もあり、三度目でエリはサムエルに「主よ。お話下さい。しもべは聞いております」と答えるよう言いました。

神様はいつも私達に話しかけておられます。私達はいつも聞く耳を持っているでしょうか？ 私は様々な心配事で頭が一杯になることがあります。経済的な心配、家族に関する心配、仕事でのプレッシャー、夕飯の支度のことで頭がいっぱいになることもあります。そんな時こそ、神様の御声に耳を傾けるよう意識したいものです。

真の意味で聞くということは、その聞いたことを私達の実践に生かしていくということでもあります。ですから、一人暮らしの人に電話を掛けて励ましたり、ホームレスの人のために食事を提供したり、刑務所に入っている人に手紙を書いてみるなどして、神様の愛を私達が表していく時、私達は神様の御声を真の意味で聞いていることになると思います。また、よく知らない人に対してでも親切に接したり、反抗的な子供にやさしく愛の手を差し伸べてあげることも、神に聞く者の歩みとしてふさわしいと言えましょう。神様が語られた時、「しもべは聞いております」と喜んでお答えしたいものです。

讃美歌 II編83

祈り 親愛なる神様、いつも私達に語りかけて下さりありがとうございます。そんなあなたの御言葉に聞く姿勢を持てるよう、お導き下さい。日々の悩みに惑わされることなく、本当に大切なあなたの御言葉に耳を傾けられますように。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ビリー・シルヴィ  
(在住都市不明)

6月5日(水)

## 神の御言葉にこそ拠り頼む

聖書朗読 Iサムエル 15：13～26

するとサムエルは言った。「主は主の御声に聞き従うことほどに、全焼のいけにえや、その他のいけにえを喜ばれるだろうか。見よ。聞き従うことは、いきにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。」 Iサムエル 15：22

サウルはアマレク人との戦いの際、神様から細かな指示を受けて戦いに臨みました。アマレク人は、イスラエルの民を苦しめようとしていたからです。この時、サウルは高慢で自信過剰になっていて、正しい判断が出来なくなっていました。そして、自分が犯した間違え（神様の指示に従わなかったこと）の責任を、イスラエルの民に押し付けようとしたのです。

なぜサウルは神様に従わなかったのでしょうか？ それはサウルが、「神の御言葉は絶対的価値があってその全てに従うべきだ」ということに気付かなかったからです。サウルは、神様の命令に“何となく”従えばいいのではないかと軽く考えていました。（神様は「戦いの後、何も戦利品として持ち帰るな」とお命じになったのですが）サウルは捕虜として捉えたアマレク人の王や家畜を引き連れて帰って来たのです。これは、神様からの指示に明らかに反する行為だったのですが、そうすることが栄えあることだとサウルは勝手に考えたのです。その方が、イスラエルの民も気分を良くするだろうと、サウルは考えたのです。

私達も、サウルと同じような間違いをする弱さを持ってはいないでしょうか。神様がお命じになっていることをきちんと理解しようとせず、軽視してしまうことは無いでしょうか。神様の御言葉を、私達の考え・思いで勝手にねじ曲げてしまうことは無いでしょうか。私の考えの方が（神様の御心よりも）優れていると思ってしまう私達の弱さを神様は全てご存知です。この愛なる神様の御言葉にこそ、拠り頼みたいものです。

讃美歌 501

祈り 全能なる神様。御心に従うことの大切さを心に刻むことが出来ますようお導き下さい。御名を賛美し、イエス様を通して与えられた赦しに感謝します。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ノーマ・プリビット

カリフォルニア州 サウザンドオークス

6月6日 (木)

## 谷を歩く時も

聖書朗読 I 列王記 20:20~23

たとい、死の陰の谷を歩くことがあっても、私はわざわいを恐れません。あなたが私とともにおられますから。あなたのむちとあなたの杖、それが私の慰めです。

詩編 23:4

私は人生の殆どを、カリフォルニア州の溪谷地帯に住んで過ごしてきました。これまで住んだことのある溪谷地帯は、サンホアキン溪谷、サンタクララ川溪谷、そしてコーンジョー溪谷です。そんな住環境のせいか、私は谷をハイキングするのが大好きです。

聖書を開きますと、谷が関係する聖書箇所をしばしば目にします(旧約聖書には、少なくとも39か所あります。)シリアの王ベン・ハダデが、軍隊を伴ってイスラエルを攻めようとした時、神様はシリア人をイスラエルの手に渡されました。ベン・ハダデは神様について「主は山の神であって、低地の神ではない」と勝手に考えていました。しかし、もしベン・ハダデが神の御言葉にもっと注意深く聴いていたならば、神様は山を御手に治めておられるだけでなく、山も低地(谷)も、世界全てを御手に治めておられる神であられることに気付いたことでしょう。

実際、聖書を見ますと、神の大いなる業は谷のような場所でしばしばなされていることが分かります。また今日のクリスチャンたちも、「私は『人生の谷』のような局面で神の御業を体験しました」と証する人が多いのです。「人生の谷」のように局面でこそ、私達は神様によって強められ、良い意味で変えられるのです。ユダヤ人たちが捕囚された際、彼らは「私達の望みは失われた」と嘆きました。しかし、神様は預言者エゼキエルを通してこう言われたのです。「わたしがまた、わたしの霊をあなたがたのうちに入れると、あなたがたは生き返る」。私達が「人生の谷」のような場面に置かれた時、神様が共に居て下さり、神様から頂く確かな望みによって強くされますよう、そして神様の御力が現されますよう、共に祈りましょう。

讚美歌 270

祈り 天地万物全てを御手に治めておられる神様。あなたの変わることのない愛に私達が常に拠り頼み、「人生の谷」を脱出できますよう、助け導いて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

アンディ・ウォール  
カリフォルニア州 オークパーク

6月7日 (金)

## 塩がもたらす効果

聖書朗読 II 列王記 2:19~22

あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。  
マタイ 5:13

数年前、エプソムソルト(別称:エプソム塩または硫酸マグネシウム)という物質の効果について耳にしました。皮膚にトゲが刺さってしまった際、エプソムソルトを溶かしたお湯にトゲが刺さっている部位を浸します。そしてトゲが刺さっている部分の周囲を指で押すと、そのトゲは簡単に取り除くことが出来るのだそうです。また、エプソムソルトを溶かしたお湯で入浴すると、疲労した筋肉を回復させるために非常に効果があるそうです。さらに、トイレにエプソムソルトを少量流すと、地下のパイプの中にある小さなゴミなどを取り除く効果があると聞きました。今まで聞いたことがないエプソムソルトの効果でした。

塩(ソルト)に関連する話がもう一つあります。ある女性が長いこと咳が収まらず、治療法を求めて、何件もの病院へ行きました。とある病院へ行った後、遂に咳が収まる方法が見つかりました。その方法は何だったと思いますか? 生理食塩水を鼻にスプレーする方法だったのです! これを試したところ、彼女の咳はおさまったのです。

聖書の時代でも、塩は調味料として使われていました。塩で味付けすると、風味が出ますね。私達クリスチャンは、(霊的な意味で)良い塩となって、霊的に豊かで味のある生き方を他者と分かち合うことが期待されています。私達は「地の塩」なのです!

讚美歌 502

祈り 神様、御名を賛美します。私達があなたの知恵に拠り頼み、私たちが発することばが、いつも親切で、塩味のきいたものであるよう、お導き下さい。  
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

カタ・ウインザー  
カリフォルニア州 サンディエゴ

6月8日(土)

## 恵みで満たされるために

聖書朗読 II 列王記 4:1~7

人知をはるかに越えたキリストの愛を知ることができますように。こうして、神ご自身の満ち満ちたさまにまで、あなたがたが満たされますように。

エペソ 3:19

素晴らしいレストランへ招待されたら、お腹が空いた状態で行きたいですね。「美味しい食事は残さず味わいたい!」と、私達は思うのではないのでしょうか。

本日の聖書朗読箇所では、未亡人とその子どものために行われた奇跡が記録されています。この未亡人は預言者エリシャの所に行き、次のように伝えました。未亡人には借金があったのですが、債権者は「お金を返せないなら二人の息子を奴隷にするために連れて行く」と言っている、と。これを聞いたエリシャは、空の容器を、出来るだけ多くの借りてくるよう指示しました。未亡人は息子たちと共に、その通りにしました。そして彼女のもとにあった油の壺から、借りてきた容器に油を注ぎ始めました。すると、何と借りてきた全ての空の容器が油で満たされるまで、油は注がれ続けたのです。エリシャは未亡人に、容器に注がれた油を売って借金を返済し、残りは生活費に充てるよう指示しました。この未亡人はエリシャの指示に聞き従い、空の容器をたくさん用意したので、神様からの恵みとして与えられた油を豊かに頂くことが出来たのです。

ローマ5章5節にあるように、神様はその愛を私達に絶えず注いで下さっています。私達も、私達の心の中の余計な思いを取り除いて、心を空にして(霊的飢え渴きをもって)神様の愛を十分に頂きましょう。そして、溢れる神の愛を、他者と分かち合いましょう。

聖歌 507

祈り 愛する天のお父様、あなたの御恵みを十分に受けられますように。心の中の空にして、あなたの愛を受け、あなたの愛で心が満たされますようお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ロバート・P・リー  
コロラド州 オーロラ

6月9日(日)

## 大切さ

聖書朗読 II 列王記 5:1~14

そこで、イエスは彼に言われた。「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ。」  
マタイ 22:37

「大切さ」を私達はどうやって計りますか? 更に重要な問いとして、「神様とその御言葉が私達にとって大切である」というみとを、私達はどのように捉えているのでしょうか?

ナアマンはアラムという国の将軍でしたが、ツァラアトの病で苦しんでいました。ナアマンは癒し願ひ、預言者エリシャの許へ行きました。エリシャは使いの者を通して、7回ヨルダン川で身を洗うようナアマンに指示しました。(大変な病気であるにもかかわらず) ナアマンが指示されたことはあまりにも簡単ことだったので、かえってナアマンはこれに納得できず、エリシャの助言を全く大切にしないで、怒って去りました。その後、家来から助言をもらい、ナアマンは考え直してエリシャの指示に従いました。その結果、彼はすっかり癒されたのです。

主は私達に、「心を尽くし、思いを尽くし、知力を尽くして、あなたの神である主を愛せよ」という戒めこそ大切な戒めであると言われています。そして、「隣人をあなた自身のように愛せよ」という戒めも同様に大切である、と言われました(マタイ 22:37~39)。私達はこれらの戒めをどれだけ大切にしているのでしょうか。

私達が日々の生活の中で、主が言われた「大切な戒め」に対し忠実である時、私達の想像を超えて神の素晴らしい御業がなされることがあります。「この世」の価値観で大切だと言われていることだけに労力を注ぐのではなく、むしろ主が示して下さった「大切な戒め」に対し忠実でありたいものです。

讃美歌 321

祈り 天のお父様。あなたに心を向けられるようお助け下さい。また日々御心に従えるようお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

キャシー・ベッドウ・キーナー  
ペンシルベニア州 チェンバーズバーグ